

編集後記

新型コロナウイルス感染症第8波が始まってしまっているようです。これから冬にかけてインフルエンザとの同時流行はどうなっていくのでしょうか？withコロナということになんでも医療従事者としてはなかなか以前のように気軽に忘年会というわけにはいかないのが現状です。コロナが収束して早く以前のような普通の日常が戻ってくことを願っています。

「誌上ギャラリー」は有里敬代先生より「イチョウの紅葉に映える柿」です。紅葉の中に、柿の瑞々しい橙色が鮮やかです。きっと食べごろなのでしょう・・。

「論説と話題」は年末のご挨拶を長友医継鹿児島市医師会副会長、有村公良内科医会会长、下川新二外科医会会长、伊地知修小児科医会会长、上野員義耳鼻咽喉科医会会长、米盛公治整形外科医会会长にご寄稿いただきました。また、中央事務局中園豊明様、臨床検査センター上野正人様、医師会病院吉村達也様、夜間急病センター川畠一也様に1年を振り返っていただきました。ありがとうございます。

「くすり一口メモ」は田口茉莉先生より腎性貧血治療薬のHIF-PH阻害薬とその使用に関する注意点です。新しい作用機序を有する経口の腎性貧血治療薬であり、悪性腫瘍や糖尿病性網膜症、肝機能異常、高血圧等に注意しつつ適正使用が求められます。

「学術」は藤田祥次先生より「遠隔モニタリングで発見したペースメーカー電池に起因する不具合事象」です。ペースメーカーを遠隔モニタリングすることで、不整脈などの症状やデバイスの異変を早期に発見し対応することが可能な時代になってきているようです。

東京慈恵会医科大学呼吸器内科主任教授桑野和善先生より「間質性肺疾患の診断と最近のトピックス」をご寄稿いただきました。間質性肺疾患の概念、疫学、診断、主な疾患、薬剤性間質性肺炎、過敏性肺炎、膠原病関連間質性肺疾患、予後、治療等に

ついて教えていただきました。治療を行っていく上でかかりつけ医と専門医の相互連携が重要とのことです。

「切手が語る医学」には、古庄弘典先生からフランスの赤十字切手です。いつもありがとうございます。

「隨筆・その他」には小田原良治先生より「異状死体の届出義務」を考える（追補）- 東京都立広尾病院事件判決は何故違憲でないのか - をご寄稿いただきました。ご一読下さい。

栗博志先生からは「茶道、振り返れば50年、その1」です。いつもありがとうございます。

「リレー隨想」は泊成一郎先生です。医師が患者さんにとって話しかけやすい存在であること、患者さんの問題解決のために努力を惜しまないこと、学び続けること、正直であること・・心に響きます。ニーズを意識することの大切さ、仲間の大切さが伝わってきます。

4年に1度のサッカーの祭典ワールドカップカタール大会が始まりました。日本は初戦で優勝4度の強豪ドイツを逆転で破る大金星を挙げました。やるべき準備をしてきた日本チームにとっては奇跡ではなく必然だったのではないか・・ドーハの悲劇を歓喜に変えてくれた歴史に刻まれる1戦になりました。これからも展開にワクワクドキドキ目が離せません。我が街の鹿児島ユナイテッドFCは今シーズンJ2昇格をかけて非常に素晴らしい戦いをしてくれましたが、惜しくも勝ち点1及ばず3位という結果でJ2昇格を果たせませんでした。最後まであきらめず気持ちの入った熱いプレーをしてくれた選手・スタッフ・チームに感謝です。来シーズンこそはと・・期待してしまいます！「鹿児島市医報」は新年号よりリニューアルいたします。こちらも乞うご期待！楽しみにお待ちください。本年も1年ありがとうございました。

（編集委員 今村 直人）